

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」					■今年度のグリーンカーテン実施状況 (朝顔、ゴーヤ、へちまなど) ■実施した □実施していない		
取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
生き物・みどり	植物の育成等を通して、子どもたちの自然を大切に育てる心を作る	1	一人一鉢、花や野菜の栽培(アサガオ、パンジー、ミニトマト、オクラ、キュウリなど) 畑での麦やスイカの栽培	1・2年各担当 仲よし級担当	1年生 2年生 仲よし級	・一人一鉢、花や野菜の栽培(アサガオ、パンジー、ミニトマト、オクラ、キュウリなど)(仲よし級) ・畑での麦やスイカ、さつまいもの栽培(仲よし級)	【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・植物の栽培を1年間通して行った。「一人一人自分の作物」と意識して水やりや雑草取りを行い、自然に親しむことができた。(仲よし級) ・種まきから、また種ができるまでを栽培して体験することができた。(1年) ・1人ずつ野菜や花を育て、観察日記を書き、生長から収穫までできた。また、学年の畑でもそれぞれの野菜を収穫することもできた。気温の変化、降雨など自然を相手に植物を育てる難しさを知り、大切に育てていく心と行動を育むことができた。(2年) 【今後の課題】 ・野菜を一人ずつで育てていきたいが、場所の確保が困難である。自分の野菜となると、育てる気持ちや行動もより一層増すと思うので、今後一人ひとりの気持ちをいかに深めていけるのが課題だと思う。(2年) 【次年度への引継ぎ事項】 ・冬野菜は、早めに植えをしないと、修了式までに収穫が間に合わない。(2年)
		2	ホウセンカ・ヒマワリ・オクラを育てる	3年各担任	3年生	・一人一鉢、花や野菜の栽培(アサガオ)をした。(1年) ・1人で春から夏にミニトマト、冬から春にパンジーを育てた。また、	
		3	ゴーヤを育てる 緑のカーテンを育てる	4年各担任	4年生	・学年の畑で、春から夏にナス・オクラ・きゅうり・ピーマン、秋にさつまいも、冬に大根と玉ねぎを育てた。(2年生) ・例年大豆を育てているが、今年度は体育館のエアコン工事のため実施することができなかった。(3年) ・ゴーヤを育てた。(4年)	
米作り	田んぼづくり、米づくりを通して、自然を大切にする心や食べ物をつくる人への感謝の気持ちを育てる	1	田んぼづくり しろかきの泥んこ体験	5年各担任 教育施設業務員 総合的な学習担当	5年生 1年生	・田んぼの代掻きをした。(1年) ・屋上の田んぼを生育途中に数回見学した。わずかな背丈の稲がどンドン生長し、青々とした緑や稲穂が垂れている状態なども見ることができた。収穫したお米を給食で喫食し、お米のできるまでの過程や手間がかかること、時間もかかることなどを感じ、作ってくれた5年生やお手伝いをいただいた地域の方々への感謝の気持ちを持つことができた。(2年)	【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・お米になる前の土壌の状態を知ることができ良かった。(1年) ・米を育てることで、「ごはん」になるまでの過程や作業等について、教科書での机上での学習だけでなく、実体験としてより身近に感じることができた。また、米の栽培には、たくさんの方々の手間と時間がかかっていることもわかり、お米のありがたみ、一粒の大切さを知った。(2年) ・管理職、他学年、地域の方、保護者、前校長先生、栄養士の先生と協力し、情報収集したり一緒に作業したりして、ていねいに米づくりを行うことができた。(5年) 【今後の課題】 ・校内に向けての発信はできたが、地域や茅ヶ崎市に向けて発信することができれば、汐見台小学校の米づくりの価値が上がると感じた。(5年) 【次年度への引継ぎ事項】 ・町の中に、田んぼがないので、こんなに身近にある田んぼを見ることができ貴重な体験を活かし、他学年でも生活や理科等でも授業で活用していければいいと思う。(2年) ・年間を通して行ったことを記録した資料を残している。(5年)
		2	田植え、田んぼの管理	5年各担任 教育施設業務員 総合的な学習担当	5年生 全学年	・田んぼを作るところから、稲を育て、収穫し実食することを通して、農業の大変さを感じることができた。また、米を作る過程で、さまざまな人と関わり、体験させていただくことで、たくさんの人の支えで生産が成り立っていることを感じることもできた。さらに、生産の過程で苦労したことや困ったことなどをベースにして、今後汐見台小学校の5年生になる児童のための、「米づくりマニュアル」を書き上げることで、米づくりを伝統として残していきたいという意欲につながることができた。(5年)	
		3	収穫、お米を調理し食べる 収穫したお米の活用方法を考え、得られた実感をもとに地域へ発信していく	5年各担任 教育施設業務員 総合的な学習担当 学校栄養士	5年生 全学年		
		4	生育過程の見学	2年生各担任	2年生		

(様式1) 学校エコ活動シート

資源・廃棄物削減の取り組み	ごみの分別・リサイクル活動を推進し、ごみの量を減らす	1	身近なもののマークの意味を知り、日常的に分別・リサイクルの意識を高める ごみ箱に具体的な文字やイラストを描き、ゴミの分別を図る	2年生各担任 4年各担任 仲よし級各担任	2年生 4年生 仲よし級	<p>・ごみ箱に具体的な文字やイラストを描き、ゴミの分別を図る。(仲よし級)</p> <p>・使用していない照明を消す。(仲よし級)</p> <p>・汐小前海岸でゴミ拾いをした。(1年)</p> <p>・日頃からゴミを分別している。また、図工科や生活科で使用した材料等、生活科での栽培作業でのゴミも分別し、ゴミの削減を意識させている。(2年生)</p> <p>・生活科で、新聞を割いたり、丸めたりする動きと音を楽しむ授業をし、その後もゴミではなく、古紙として回収できるように処分をした。図工科では、トイレトペーパーの芯を利用した、ヘビを作った。子どもは家でも、もう一つ作ったよ、などの報告もしてくれた。(2年)</p> <p>・7月と9月に砂の造形遊びを行った。海に親しみ、砂と海水に悪戦苦闘しながらも、チームでトンネルや水の通り道などの造形を作り、互いに鑑賞し、今まで以上に海や砂浜を身近に感じる事ができた。2月に行ったビーチクリーンでは、海のゴミには、遊びにきた人が捨てたゴミと漂着したゴミもあることを知り、ゴミ収集に意欲的に取り組んだ。活動後には、可燃・不燃だけでなく、プラゴミ、金属ゴミなど、様々な分別をし、ゴミを削減すること、ゴミを捨てないことが環境を守る、きれいな海を維持していくのに、大切なことを学んだ。(2年)</p> <p>・社会科の「健康なくらしとまちづくり」の学習で、環境に関する学習を行った。茅ヶ崎市におけるごみの問題について学習を深め、まとめたものを発表するとともに、「茅ヶ崎環境フェア2025」のイベント会場内で、本校4年生有志が環境美化の募金活動を行った。(4年)</p> <p>・日直の当番の際、使用していない部屋の電気やエアコンのスイッチを切った。(4年)</p> <p>・教室移動時、教室の消灯やエアコンの電源を消した。(4年)</p> <p>・年間を通じて給食指導をし、給食の残食を減らすように取り組んだ。4年生は3月現在、栄養士に学校の給食を規定量より多めに配缶してもらっている。(4年)</p>	<p>【取組の評価】■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった</p> <p>【理由】</p> <p>・「プラ」のマークをかくことで、それ以外は「もやすごみ」ということの意味が分かった。(仲よし級)</p> <p>・使用していない教室の照明をこまめに消すことができた。(仲よし級)</p> <p>・細かなゴミまで拾うことができた。(1年)</p> <p>・市のゴミ袋が有料になったこともあり、ゴミの関心が高いと思う。ただ家庭によっては、分別の基準があいまいなところもあるので、学校生活でも話をし、活動をしていくことで、意識を高めていくことができたと思う。(2年)</p> <p>【今後の課題】</p> <p>・海での安全の確保(1年)</p> <p>・日頃の生活から、ゴミ問題を身近に感じ、当たり前のように分別したり、削減したりすることができるようにしていきたい。(2年)</p> <p>【次年度への引継ぎ事項】</p> <p>なし</p>
		2	古紙や牛乳パックを利用した工作を行う	1・2年各担任 3年各担任	低学年 3年生		
		3	ビーチクリーンについて考える	3年各担任	3年生		
		4	道徳「ごみステーション」【勤労・公共の精神】を学習し、意識を高める	3年各担任	3年生		
省エネルギーの推進	日常の学校生活の中で省エネルギー活動を実践します	1	使用していない照明を消す	仲よし級各担任	仲よし級 教職員		
SDGs	できることから始めることで、SDGsへの関心を高め、未来の持続していきける社会への意識付けをしていく	1	校内での節電・省エネ(担任による声かけ) 特別教室利用時は教室消灯、エアコンのこまめな管理・手洗い時の水道使用量の減少	4年各担任	4年生		
		2	家庭科をはじめ、キャンプにおける、掃除やゴミ出しの工夫 ごみの分別・なるべくコンパクトにまとめる・使えるものの再利用・給食の残食を減らす	5年各担任 4年生の各担任	5年生 4年生		
		3	社会科において日本の産業を学び、消費活動を通し、最後まで使う責任を心掛ける生活をしていく	5年各担任	5年生		
海の豊かさを守ろう	海のごみを減らすために私たちにできることを考え実践する	1	砂の造形遊びを通して、身近な海に親しむ 身近な海のごみ問題について知り、ビーチクリーン活動を行う	1年各担任 2年各担任	1年生 2年生		
		2	定期的なビーチクリーン活動をもとに、茅ヶ崎の海について考える	6年各担任	6年生 教職員		
		3	地域規模で私たちにできることを考える	6年各担任	6年生 教職員		

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

写真

写真

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

楠山 小百合

今年度も、米作りや緑化活動など、学校内外の環境を利用した活動も継続して行うことができた。地域との連携の中で休日に予定していたビーチクリーンは、今年度は荒天により中止となってしまった。汐見台小学校前の海岸へビーチクリーンやビーチコーミング等に出かける取組みは各学年行っており、身近な自然環境から学びやすい環境にある。各学年での今後の検討や改善が必要なものはあり、よりよい方向に向けて取り組めるよう計画していきたい。

【今後の方向性について】

- ・稲作についての今年度の体験を踏まえて、さらにSDGsに関わる学習へ広げていきたい。
- ・身近な地域の学習を通して、エコ活動を当たり前のこととして推進していきたい。
- ・地域の豊かな資源を活用して、学習へ繋げていきたい。